

豊中市と沖縄市は兄弟都市として50周年を迎えました。

いちゃりばちよーでー

出会えば兄弟

～ 友好の絆を次世代へ～

1964年(昭和39年)12月、木箱にぎっしり詰められた霊石と仏桑華(ハイビスカス)が豊中市に届きました。送り主はコザ市。現在の沖縄市です。霊石は、第二次世界大戦の激戦地である摩文仁海岸の小石に入魂したもの。豊中市に住む沖縄戦戦没者の遺族へ、形見代わりの贈り物でした。仏桑華の苗木は大切に育てられ、やがて鮮やかな花を咲かせます。——両市の交流の原点、それは平和への思いです。

1972年(昭和47年)5月15日、沖縄が本土に復帰し、1974年(昭和49年)4月1日にコザ市と美里村が合併して「沖縄市」が誕生。その年の11月3日、豊中市と沖縄市は「兄弟都市」を宣言しました。

あれから50年。現在は両市の行政間だけでなく、市民同士のさまざまな交流が広がっています。本誌はその半世紀の歩みを振り返り、後世に引き継ぐためのものです。単なる記念誌ではなく、兄弟都市の歴史を知り、今を見つめ、次の世代に伝える、いわば未来につなぐバトンです。両市の思いを、より多くの人に受け取ってほしいと願っています。そうして友好の絆がさらに広がれば、これほどうれしいことはありません。

兄弟都市宣言

「豊中市と沖縄市の友好は昭和39年沖縄市が第二次世界大戦の戦没者遺族のために、豊中市に霊石と仏桑華を送ったことにはじまる。

以来、両市は都市問題、教育文化の交流を重ね相互の理解と信頼を深めてきた。この歴史的背景のもとに、更に両市の友好と市民相互の交流を深め、市民福祉と平和を祈念してここに兄弟都市であることを宣言する。

昭和49年11月3日 豊中市長 下村輝雄 沖縄市長 町田宗徳

※「兄弟都市」であるのは、沖縄の「いちゃりばちよーでー(出会えば兄弟)」という言葉に由来していると言われています。

50th
Anniversary
Toyonaka City × Okinawa City

CONTENTS 目次

- | | | | |
|-------|--|-------|--|
| 03-04 | 豊中市・沖縄市の基本情報 | 41-50 | 沖縄市から学ぶ「平和」—基地の街の記憶を通して/
大阪公立大学大学院文学研究科教授 山崎 孝史 |
| 05-12 | LOOK BACK 50 YEARS
～現在から過去へとたどる50年の足跡 | 51-56 | 座談会 第1部/歩みを振り返り、未来を考える。 |
| 13-14 | 両市長あいさつ | 57-66 | 「コザ学校」から学ぶ ～兄弟都市交流に携わって～/
元・豊中市副市長 田中 逸郎 |
| 15-22 | 「兄弟都市」豊中市との交流史/
大阪大学大学院人文学研究科教授 北村 毅 | 67-72 | 座談会 第2部/今を見つめ、夢を語らう。 |
| 23-40 | 兄弟都市から生まれた交流
●両市の友情が交流の礎に
●平和交流
●阪神・淡路大震災への支援
●青年会議所同士の交流
●豊中まつり
●ピースフルラブ・ロックフェスティバル
●エイサーを通じた交流
●兄弟都市提携40周年記念事業
●40周年共同研究
●修学旅行で沖縄の現在(いま)を知る
●兄弟都市提携50周年記念事業 | 73-76 | 未来へつなぐ平和への思い |
| | | 77-94 | 兄弟都市提携50周年記念コメント&エッセー集 |
| | | 95-96 | 兄弟都市交流年表と主な参考文献 |
| | | 97-98 | おわりに～未来への提言～ |